

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成17年7月7日(2005.7.7)

【公開番号】特開2002-159495(P2002-159495A)

【公開日】平成14年6月4日(2002.6.4)

【出願番号】特願2001-337406(P2001-337406)

【国際特許分類第7版】

A 6 1 B 8/12

【F I】

A 6 1 B 8/12

【手続補正書】

【提出日】平成16年11月2日(2004.11.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

内視鏡と、

前記内視鏡の遠位端に接続したプローブ・ヘッドと、

前記内視鏡に固定させた可撓性チューブと、

前記可撓性チューブ内に摺動可能に配置した半剛性ロッドと、

を備える剛性調節可能な経食道プローブ。

【請求項2】

前記可撓性チューブが内視鏡の内部の中心に来ている、請求項1に記載の剛性調節可能な経食道プローブ。

【請求項3】

前記内視鏡が連結区間を含む、請求項1又は2に記載の剛性調節可能な経食道プローブ

。

【請求項4】

前記プローブ・ヘッドが超音波トランスジューサである、請求項1乃至3のいずれかに記載の剛性調節可能な経食道プローブ。

【請求項5】

連結区間を有する内視鏡と、

前記内視鏡の遠位端に接続したプローブ・ヘッドと、

前記内視鏡の内部に固定させた可撓性チューブと、

前記可撓性チューブ内に摺動可能に配置した半剛性ロッドと、

を備える剛性調節可能な経食道プローブ。

【請求項6】

前記可撓性チューブが内視鏡の内部の中心に来ている、請求項5に記載の剛性調節可能な経食道プローブ。

【請求項7】

前記プローブ・ヘッドが超音波トランスジューサである、請求項5又は6に記載の剛性調節可能な経食道プローブ。

【請求項8】

剛性調節可能な経食道プローブを使用する方法であって、

その遠位端にプローブ・ヘッドを接続させかつその内部に可撓性チューブを固定させてい

る内視鏡を患者内に挿入するステップと、

前記内視鏡をより剛直にするために、前記可撓性チューブ内で半剛性ロッドを前進させる
ステップと、
を含む方法。

【請求項 9】

さらに、前記内視鏡をより柔軟するために、前記可撓性チューブ内で前記半剛性ロッドを後退させるステップを含む請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

さらに、超音波トランスデューサを用いて内部臓器を画像化するために前記プローブ・
ヘッドを利用するステップを含む請求項 8 又は 9 に記載の方法。